

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2012.11.5 No. 150 連絡先 FAX 042-555-1911



横田基地 大規模パラシュート降下訓練 10月29日～11月2日
C-130輸送機 住宅地上空を自由に飛行 米陸軍の降下訓練は延べ約200名



(2012.11.1 横田基地 左：パラシュート降下とパラグライダー降下、右：C-130 2機による訓練 撤去の会ブログ)

市民への情報提供は29日当日 嘉手納基地陸軍ではなく特殊部隊が訓練

市民に情報提供されたのは、10月29日、訓練当日でした。訓練時間も明記せず、訓練しないのは夜10時から朝6時までというもので、実際に夜間訓練も実施されました。

嘉手納基地所属陸軍が訓練、とされていますが嘉手納基地は空軍です。実際にパラシュート降下訓練をしたのは、読谷村にあるトリステーションの特殊部隊（グリーンベレー）のようです。

また、特殊部隊の米兵の移動には、嘉手納基地のMC-130輸送機が使用されたようです。

パラシュート降下訓練は、10月29日：56名、10月30日：45名、10月31日：夜間で6名、11月1日：夜間含め86名です。確認されただけでも降下人数は延べ193名です。

パラシュート降下訓練は今年、1月、6月、7月と行われましたが、4回目の今回は、訓練日数も最長、規模も最大でした。C-130輸送機は夜10時頃まで住宅地上空を飛行していました。

「撤去の会」（略称）は11月1日、政府に文書でパラシュート降下訓練の中止を求めました。

沖縄でルール違反くり返すオスプレイ 11月中に本土運用すると政府

在日米軍が、MV22オスプレイを11月中にも本土で低空飛行などの訓練を開始する方針であると日本政府に伝えました。具体的な日時や、使用する飛行ルートはまだ明示されていません。政府は「沖縄の負担軽減」のため訓練の受け入れを、と言っています。しかし、沖縄県民の願いはオスプレイ訓練の移転・分散化ではありません。本当に負担軽減する気なら、沖縄へのオスプレイ配備撤回、普天間の閉鎖・撤去をすべきです。米軍が勝手に運用している横田基地の空もですが、オスプレイが自由に空を飛び交う日本は、主権国家とは言えません。主権を取り戻そう！

横田基地もいらない！10・27市民交流集会 約800人参加 (No.150の裏面)



10月27日、福生市民会館で、沖縄とともに声をあげよう 横田基地もいらない！市民交流集会（主催：同実行委員会）が開催され、約800人が参加しました。

午前中は、2006年琉球朝日放送制作の沖縄・辺野古のたたかひの記録「海にすわる」と、7.16さようなら原発「10万人集会の記録」のDVDが上映されました。

また、バスによる「横田基地めぐり」も、10時、11時と2回、行われました。

午後は、孫崎享（うける）氏（写真）の講演「アメリカの言いなり日本、日米安保の虚構」でした。孫崎氏のプロフィールは、東京大学法学部中退、外務省入省、駐ウズベキスタン大使、国際情報局長、駐イラン大使をへて2009年まで防衛大学校教授。著書は「不愉快な現実—中国の大国化、米国の戦略転換」「戦後史の正体 1945—2012」などです。

孫崎氏は、1951年9月、日米安保条約が米陸軍の下士官クラブで調印された事や、安保条約とは「米国が望むだけの軍隊を、望む場所に、望む期間駐留する権利をあたえるもの」（安保条約締結交渉米側代表ダレス氏）だったと語り、さらに安保条約は米軍が日本を守る義務を負うことではないと指摘。今起きている尖閣、竹島問題、さらに千島問題にも触れ、日本の領土問題をめぐる外交が、米国の世界戦略の中で翻弄（ほんろう）されてきたと述べました。「基地問題は脱原発やTPPなど全ての問題にリンクしている」、浜岡原発の再稼働は一人ひとりの力が止めている。まとまれば何かできる、連帯していけば、最終的にはつながっていくだろう、と締めくくりました。

その後、実行委員会の窪田一忠事務局長の「基調報告」、米軍機の低空飛行訓練、騒音被害とたたかう群馬県の小田暁生さん、「オスプレイくるな静岡県民集会」の取り組みについて島田絢子さんが報告しました。集会後のデモ行進は、第5ゲート、第2ゲート、商店街を通り、JR福生駅近くの公園で流れ解散しました。



オスプレイNO！ 沖縄に連帯し 東京で集会

アメリカ言いなりノー！ 沖縄と連帯して米軍基地を撤去させよう！と、10月23日、日比谷野外音楽堂で「オスプレイ配備撤回を求める中央集会」が開かれ、雨の中2000人が参加しました。横田基地もいらない10・27市民交流集会実行委員会のメンバーも集会に参加し、壇上で井出由美子代表委員がアピールを行いました。（写真：雨の中デモ）



沖縄米兵 外出禁止中 住居侵入し 中学生殴る

米兵の相次ぐ暴行事件に、在日米軍司令官は、夜間外出禁止令を出していましたが、禁止時間帯にまた暴行事件が起きました。

2日午前1時ごろ、読谷村で嘉手納基地所属の兵士が飲食店で飲酒し暴れた後、同じ建物の3階の住居に侵入し中学生を殴りケガを負わせ、テレビも壊し、3階から飛び降りました。米兵は米軍内の病院に運ばれました。

今後、米兵の身柄の扱いが問題となりますが藤村修官房長官は同日の記者会見で「米側は全面的に捜査に協力している」として、身柄引き渡しを求めない考えを示しました。一方、読谷村の石嶺伝実村長は声明で「何の落ち度もない生徒に対する蛮行は許しがたい。全村民を代表して抗議する」とのべ、米兵の日本側引き渡しを求めました。抜本的解決は基地撤去です。



（写真は琉球新報号外）